

総合的な学習の時間の指導計画の作成の留意事項

棚倉町教育委員会

総合的な学習の時間の計画立案にあたっては、下記の事項に留意する。

【目標や内容の設定にあたって】

- 総合的な学習の時間の目標を踏まえ、**キャリア教育**を推進し、児童が**豊かな人生を切り拓き、持続可能な地域社会の創り手となる**ために必要な資質・能力が育成できるように、各学校の目標や内容を設定する。
- 内容の設定にあたっては、幼稚園の活動、低学年の生活科等の関連を踏まえ、棚倉町の豊かな自然や歴史、文化について、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習が行えるようにする。その際には、「チャレキッズ」、「歴史的風致維持向上計画」や「たなぐら子どもガイド育成講座」等との関連を十分に図るようにする。

【探究の過程と自己マネジメント力の育成】

- 「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ために、**探究の過程(①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現)**を充実させるとともに、その過程において、児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が探究的な見方・考え方を働かせ、**自己マネジメント力を高めるよう関連させながら**、創意工夫を生かした教育活動が充実するように計画する。
- 各教科や領域の学習活動との関連を図る場合には、「必ず総合的な学習の時間の目標及び内容を踏まえたものであること」や「探究的な学習の過程に位置付いていること」などを満たすように計画する。具体的には、「**学習課題を児童自らが設定する**」「**学習活動の計画を児童が立てる**」「**児童の自主的な活動を保障する**」「事後において、体験で解決できなかったことを**別的手段で探究する活動**を行う」など、一連の学習活動が探究的な学習となっているよう配慮することが必要である。

【基礎的・汎用的能力の育成】

- 探究的な学習活動を展開する資質・能力を育成するために、**幼稚園の遊びを生活科にどうつなげ、生活科の学習を総合的な学習の時間にどう発展させていくか**、さらに、**小学校から中学校の学習活動に、連続的・発展的に展開できるようにする**などに配慮し、発達段階に応じて探究する力を充実させるようにし、基礎的・汎用的能力を育成する過程で幼小中の関連を図り、**12年間かけて探究する力を育成していくよう**計画する。
- 小学校においては、幼稚園で遊びを通して培った資質・能力を低学年の生活科や特別活動等を中心に伸ばすようにする。特に、生活科においても、「遊びを工夫しながら試行錯誤して学ぶ」「遊び自体に没頭し、その面白さに気づく」「みんなで楽しみながら遊び、友だちのよさや自分との違いを考えたり、相手の意見を尊重したり自分に自信を持ったりする」などの資質・能力を育成し、それらを中学年以降の総合的な学習の時間に生かすようにする。

【基礎的・汎用的能力を育む探究課題】

- 中学年以降においては、生活科での学習を生かし、探究的な学習を展開する。なお、下記の点を踏まえながら、地域の人的な資源や物的な資源を活用しつつ、探究するにふさわしい探究課題を設定する。

キャリア教育の視点（社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育てる）から、解説書の探究課題の例示を見てみれば、次の課題などが該当するであろう。

- ・ 食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者（現代的な諸課題）
- ・ 安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々（現代的な諸課題）
- ・ 町づくり：町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
（地域や学校の課題）
- ・ 伝統文化：地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（地域や学校の課題）
- ・ 地域経済：商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域や学校の課題）
- ・ 防災：防災のための安全な町づくりとその取組（地域や学校の課題）
- ・ キャリア：実社会で働く人々の姿と自己の将来（児童の興味・関心に基づく課題）
- ・ ものづくり：ものづくりの面白さや工夫と生活の発展（児童の興味・関心に基づく課題）

- 小学校においては、5・6年の「チャレキッズ」を中核に据え、事前・事後の探究学習を充実させるとともに、体験内容を表現することで「チャレキッズ」での体験を共有するように計画する。
- 中学校においては、小学校での「チャレキッズ」体験をもとに、中学校2学年での職業体験活動に向けた探究学習を1学年から実施するようにするなど、事前指導を充実する。さらに、事後指導によって、3学年での進路決定に寄与するような探究学習を組織するようにしたい。

【その他の留意事項】

- 児童・生徒が一人1台のタブレットを活用することを前提に、探究的な学習の過程で、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫する。その際、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮する。
- 地域との連携に当たっては、コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用や、地域学校協働本部との協働を図るとともに、学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行う。
- 探究的な学習活動が成立すれば、活動のゴールに至らなくても（結果が出なくても）総合的な学習の時間の目標は達成できることや、探究的な学習活動にはある程度の期間と時数が必要であることを踏まえ、単元を構想し、児童の学習状況に応じて修正して指導することが可能なように計画する。